

ふれあ

この度、倉敷市民間保育所協議会の会長を前期に引き続き二期目を務めさせていただくことになりました。また、みちる保育園の中桐哲夫と申します。

私が前期会長に就任させていただいた二年前は、ちょうど「子ども・子育て支援新制度」に移行した年で、保育園等事業者側も行政側も手探り状態で混乱した中でスタートでした。二年が経ち、制度面は落ち着いてきたものの、未だに課題も残されています。急激な制度の変更は、対応に時間がかかったり、歪が生じたりするものです。当協議会としても、会員各園の運営の安定化の為に力を注ぎたいと考えております。

そして今年度からは、社会福祉法人改革が行われ、社会福祉法人の在り方が問われることとなりました。今、少子化・高齢化・人口減少という様々な問題を抱えている我が国の中で、社会福祉の重要性が認識され



「保育を取り巻く課題」

公益社団法人 倉敷市民間保育所協議会

会長 中桐 哲夫

る一方、社会福祉事業の担う役割が大きくなってきています。それを行う事業者である社会福祉法人は、健全な運営・管理をすることが不可欠であり、運営の透明性を図り、真に社会福祉事業を充実させていくことが求められています。

当協議会では、加盟園の職員の資質・技能の向上の為の研修事業、園の経営安定の為の予算対策事業、資金貸付事業などを通じて社会福祉事業の充実に貢献できよう力を注いでおります。

さて、待機児童対策が以前から問題となっており、ますが、倉敷市におきまして今年度当初時点で百名を超える子どもたちが入所できずにいます。特に市内中心部に多く、対策が追い付かないというのが現状だと思えます。来年度には市内に新園が二園開園予定で、定員増を行う園と合わせて二百名弱の定員が増える見込みですが、昨今の保育需要の増加を考えると、まだ十分とは言えないかもしれません。出生率の低下により子どもの数は減少しているものの、国の進めている働き方改革に伴い、子育て

中の保護者の皆さんが仕事と両立するために保育所や認定こども園の需要が高まっています。また、大都市に人口が集中しているために保育需要が高まり、保育所等の新設が相次いでおり、地方の保育士養成校を卒業した若者が都市部に流れる傾向が強まって、全国的に保育士が不足する事態となっています。

倉敷市内の保育所や認定こども園においても、人材の確保となっています。国の政策により、保育士等職員の処遇改善が図られてきており、他業種より低いと言われていた保育士の賃金水準はかなり改善されてきました。しかし、通常の保育以外に、気になる子どもへの対応、安全対策、保護者対応等保育士に求められる仕事の内容が多岐にわたってきており、保育士資格を持った人でも他の業種に就職したり、都市部に流れたという状況はあまり変わっていません。

当協議会でも、市と協力して「倉敷市民間保育所ガイドンス」を開催して、保



この度の栄誉を心からお祝い申し上げますとともに、健康にご留意され、倉敷市の子どものため、今後ますますのご活躍を祈念し、私共保育関係者にご指導をいただきたくお願い申し上げます。



「伊藤千鶴子先生
瑞宝双光章
受章 祝賀会」

この度、平成二十九年春の叙勲におかれまして、社会福祉法人くすの木福祉会 中山保育園（倉敷市児島小川）園長 伊藤千鶴子先生が、「瑞宝双光章」の栄に浴せられました。

去る七月二十一日（金）、倉敷ロイヤルアートのホールに於いて、公益社団法人倉敷市民間保育所協議会主催により会員一同が集い、倉敷市長 伊東香織様もご臨席くださり、荘厳な中にも心温まる和やかな祝賀会が開催されました。

伊藤先生は、山口県内の保育園や倉敷市内の保育園での勤務を経て、昭和六十一年四月から現在まで、中山保育園の園長を務められていらっしゃいます。半世紀以上にわたる、乳幼児保育一筋に邁進された伊藤先生の保育界における貢献度は、計り知れません。

「続けてこられたのは子どもたちとの触れ合う時間が何よりの喜びだから」と語られる笑顔は神々しく、また、普段からお洒落でいらつしやる伊藤先生は、女性としても憧れる存在です。

倉敷市の公立・民間保育園で組織される「倉敷市保育協議会」では、女性として初の会長に就任されるなど、倉敷市、岡山県、さらには全国組織の保育団体の要職を多数歴任してこられました。

新任園長先生の紹介



遍照保育園
大原 正裕先生

子どもたちが主体的に遊び、学び、子どもにも保育者にも笑顔がたくさんの保育園になるよう努力してまいりたいと思います。よろしく願い致します。



第三福田保育園
磯崎三貴子先生

平成29年度より公設民営となり、弘恵保育園から転任してまいりました。公立と法人両方の良い保育をうまく取り入れながら、子どもたち一人ひとりに、多くの楽しい経験をさせてあげたいと思っています。ご指導のほどよろしくお願い致します。



しおかぜ認定こども園
大山 厚信先生

しおかぜは認定こども園になって二年が経ちました。子どもたちは夏の暑さにも負けず毎日元気いっぱいです。4月から山口園長の後を引き継ぎました。子どもたち一人ひとりの思いと保護者の方々の願いを大切に、地域に愛されるこども園として頑張って参ります。

平成29・30年度 新役員と

平成29年度 事業計画

新役員

会長	中桐 哲夫（みちる保育園）
副会長	吉田 久（羽島保育園）
副会長	岡野田 鶴子（清心保育園）
副会長	滝沢 伸子（連島保育園）
副会長	田中 千鶴（片島保育園）
書記	山下 浩子（中洲保育園）
書記	山口 浩子（中洲保育園）
書記	藤田 圭典（沙美保育園）
書記	中田 深雪（連島保育園）
書記	木村 直明（帯江保育園）
書記	浅田 真裕（ゆりか保育園）
書記	佐藤 玲子（琴浦中保育園）
書記	秀川 弘三（柏島保育園）
書記	田中 友子（はやぶさ保育園）
書記	守屋 恵子（すみづみ保育園）
書記	赤松 秀映（黒崎保育園）
書記	小松原 望（のぞみ保育園）
書記	梶川 義浄（若杉保育園）

総務委員会

- 園長研修会
- 諸会議の連絡調整
- 倉敷市民間保育所ガイドンスの開催
- PART I 平成29年6月17日(土)
- PART II 平成29年11月4日(土)
- 水島愛あいサロン

予算対策委員会

- 予備保育士制度、看護師配置補助の充実
- 予備調理員補助制度の導入
- 保育士等職員確保対策及び保育所職員の就労支援の充実
- 耐震補強工事及び老朽化施設の建替工事に対する補助

制度委員会

- 給料表改訂の検討
- 保育園管理規程、各種マニュアル等の一部改正の検討
- 就業規則の一部改正の検討

事業委員会

- 人形劇公演
- 日時 平成29年7月12日(水)
- 1回目 10時～11時40分
- 2回目 13時～14時40分
- 平成29年7月13日(木)
- 3回目 10時～11時40分
- 倉敷市民会館
- 内容 劇団銀河鉄道のぬいぐるみミュージカル
- 「つるのおんがえし」
- 「なしとりきょうだい」

主任保育士研修会

- 第1回目 平成29年9月14日(木)
- 第2回目 平成29年12月5日(火)
- 乳児保育研修会
- 第1回目 平成29年8月18日(金)
- 第2回目 平成29年10月13日(金)

広報委員会

- 機関紙「ふれあい」発行
- 9月 第82号
- 3月 第83号
- （保育園利用者会員・一般向）
- 民保協パンフレット「すこやかな育ちを」及び「くらしき子育て相談のご案内」の修正、発行
- 民保協ホームページの修正及び子育て家庭への情報発信

特別委員会

- 特別な問題への対応

ちまた

我が園では、新年度の始めにクラス懇談会を開いている。ここ最近では、お父さんの参加も増え、クラスに二～三人は参加してくれるようになった。ある一人のお父さんが「休みの日に、僕が子どもたちを見ているから実家にでも行っておいで。と妻に言うが、僕のことを信用していないのか行つたことがない。」と嘆いておられた。なんと素敵なご主人なのだろう。それは、信用していないのではなく、お母さんはその言葉を掛けてもらったことで心が軽くなり、別に実家に行かなくても頑張れるんですよ。と思ったものだ。

子育て中のお母さんの気持ちの調査で、子育てに大きな不安を感じているお母さんが全体の三分の二もいることがわかった。具体的に悩みを聞くと言葉の問題、生活習慣のことなどいろいろなことに悩んでいる。また、仕事をしているお母さんたちは自分の時間が持てない、子どもと触れ合う時間がとれないと悩んでいる人もいます。お父さんたちの育児参加についても聞くと、お父さんが育児参加するよりも育児の悩みを聞いてくれる、思いを共有してくれるなど夫とのコミュニケーションがうまくいっているとお母さんの方が「子育てに悩みはあるけれど楽しい」と答えている。つまり、お父さんが忙しくて育児に参加できなくてもお互いが理解しあえているとお母さんの育児ストレスは軽くなるのだ。夫婦の関係に満足することでお母さんは子どものことを心から可愛いと思え優しくできる。「子育て大変だね」「いつもありがとう。」このねぎらいの一言で子育て力もアップするにちがいない。世のお母さん方が幸せでいることが子どもたちにとって一番幸せなことである。このようになすくす子育て家族が増えることを願っている。





どうかかわって
よいのかわからない

何か気になる・・・



日々の子育ての中で子どもへの関わりがむずかしいと思ったり、家ではあまり困ると感じることはないけれど、集団生活の中で本人が困っている様子があると園の先生から声を掛けられた。

どうしていいかわからないというお父さんとお母さんはいませんか？
そういえば・・・と、ふと頭をよぎる姿が・・・

～こんな姿はないですか？～

他人への関心が
乏しく、よく一人で
遊んでいる。

視線があわない。

落ち着きがなく衝動的に
動いてしまう。

人の気持ちを理解する
のが苦手。

話し言葉が遅れる。
オウム返しが多い。
会話が苦手。

気持ちの切り替えが
できない。

集団行動が苦手。

日課や習慣などの
変更が弱い。

光や音や匂いに過剰
に反応したり、過敏
だったりする。

人の話を聞かず、興味
のあることのみ話す。

表情が乏しい。

指示が理解できない。

何度も同じ間違いをする。

呼びかけに答えず、
黙々と遊んでいる。

こだわりが強い。

カタログ的な情報を
好み、大量に暗記し
たりする。



声掛けリフレーミング

子どもの見方を「リフレーミング」してみましょう。リフレーミングとは、出来ないところに着眼するのではなく、出来ていることにまなざしを向ける事です。抽象的な言葉（ちゃんとする。ふざけない。お利口にする。頑張る等）はわかりづらいため、「具体的に」「丁寧に」「わかりやすく」「見通しがもてる」言葉かけをしましょう。

チクっと言葉

何回言われたらわかるの
ほら、ちゃんとすわって
そうじゃないでしょう
まだ、できないの？
なんで勝手にするの？

リフレーミングする

〇〇します。〇〇しようね。
背筋を伸ばして足は床にペタン、だよ。
〇〇に気をつけるともっとうまくいくよ。
こうすると出来るよ。～までにやってみよう。
始めたい気持ちはわかるけど、待っててね。

ふわっと言葉

大人から子どもへ ～元気になる言葉～
褒める言葉 励ます言葉

「よかったね」「やるな」「だいじょうぶ」「心配ないよ」
「たすかるわ」「やったね」「やってみよう」「待ってるよ」
「さすが」「また次がんばろうね」

「チクっと言葉」でなく子どもが元気になる「ふわっと言葉」をしっかり掛けていきましょう。

保育園・認定こども園では・・・

困った行動に対してもその子に応じた対応（声掛けや援助）で子ども自身が落ち着けたり、やり方を覚えたりできます。基本、気になる子に“わかりやすい関わり”をすることは、クラス全員の子どもたちにもわかりやすい対応になります。集団生活の中で、「みんな違ってみんないい」と個々を認め合う事でクラス全体の育ちにつながります。



（参考文献「発達に気になる子の子育てリフレーミング」 阿部俊彦著 中央出版）

「子どもの力を信じて・・・」 ～生活に関わる全ての人が支援の担い手です～

倉敷市総合療育相談センター ゆめばる 所長 山田 貴浩

先日新聞に、児童精神科医の佐々木正美さんが亡くなられたという記事がありました。佐々木正美さんは、障がいを欠点ではなく個性だと捉え、様々な場面で発達障がいの支援に尽力されたそうです。「障がいは欠点ではなく個性」という言葉は支援を必要とするお子さんの保護者にとって、何か救われた感覚、安堵感を与えてくれる優しい言葉ですね。

わが国の障がい福祉施策の基本的な考え方として、「障がいの有無に関わらず、誰もが当たり前、地域で生活できる社会の実現」というものがあります。障がいのある人たちが身近に生活し、当たり前に顔を合わせるようになり、「障がい」という言葉も広く一般的なものになってきています。日々の生活の中で、特に子育ての中で「落ち着きがない」「うちの子ってなんだか育てにくいな」など「もしかして・・・障がい・・・」と不安に思うこともあると思います。

でも、そんなにネガティブに考え込んでしまうことはないと思います。だって「障がいは欠点ではなく個性」なんですから。

時として「特別な支援が必要」なんて言われることもあるかもしれませんが、決してその子を否定するものでもないですし、今の社会の仕組みの中で生きていくことが出来ないわけでもないんです。特別な支援を受けることによって「障がい」がなくなる」とか「本人の成長とは関係なく出来なかったことが出来るようになる」なんてミラクルが起きることはありませんが、「特別」というよりも、「適切な支援」を受けることでその子はその子らしく、立派な自立した大人になることが出来ると信じています。

適切な支援・・・おそらく、その子自身が持っている成長する力を最大限発揮するために必要な支援なんだと思います。専門的な視点からアプローチする「療育」と呼ばれる福祉サービスもそうですし、たくさんの子どもたちと一緒に過ごす保育園の活動もそうだと思います。その子の生活すべてが支援の場であり、その子の生活に関わるすべての人が支援の担い手ではないでしょうか。

中でも、お父さん、お母さんがお子さんにとって一番の理解者であり一番の支援者であるべきだと思います。そうなるために専門的な知識や特別な力はありません。その子をその子として受け止め、ごくごく一般的な子育ての中で、お子さんに沢山の愛情を注ぎ、お子さんの力を信じて成長を願い見守ることが大事だと思います。

ゆめばるでは、発達が気になるお子さんの保護者を対象に、さまざまな相談を受けさせていただいています。特に「保護者の気持ちに寄りそう」ことを大切にし我が子を思う保護者の気持ちを応援していきたいと考えています。お父さん、お母さんだけで抱え込むことなく、ゆめばるも仲間に入れて頂いて、一緒に悩み、お子さんのことを考えさせて頂きたいと思っています。

一人で悩まないで・・・まずは相談を・・・

相談機関

- ★倉敷市総合療育相談センター
ゆめばる（くらしき健康福祉プラザ内）☎086-434-9882
- ★市役所（保育・幼稚園課）・支所（保健推進室）
- ★保健所など

保育園に通いながら療育機関に通うことが出来ます。

みんなの意見を聞いたり、支え合いながら子どもと一緒に成長していきましょう。

